

令和6年度

神山中学校
 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基本的な学習習慣を身につけさせる。
 ②必要な学びを意識させることにより、主体的に学習に取り組む態度を育成する
 ③やり遂げ感を実感できる学習活動により、確かな学力を育成する

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

学力向上委員会を適宜開催し、取り組み状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的な知識・技能の習得については一定の成果が見られる。家庭学習にもまじめに取り組み、出された課題学習も概ねやり遂げられている。 ●与えられた課題での家庭学習が十分でないため、自分の理解度や定着度に合わせた学習が不足しており、知識が定着していない生徒もいる。	・主体的に学習に取り組む習慣を身につけ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・新しく習得した知識が、既習知識と関連づけられ、他の学習の場面でも活用することができる。	・毎時間、学習課題を明確にし、振り返りを行わせることを通して、学習内容を整理させる。 ・ICTを活用した授業を展開し、個別最適化された授業実践に努める。 ・教科ごとに単元末テストを実施し、知識・技能の定着を図る。		・校内公開授業を行い、教科横断的に研修を実施することができた。 ・「発表ノート」「タブレットドリル」等を活用し、協働学習を展開することができた。 ・単元テストは定着しているが、振り返りへの取り組み状況には個人差がある。	・ICTをさらに活用して、自分の学習状況を客観的に捉えさせ、自分に合った進度や学習内容で家庭学習に取り組ませる。 ・単元後やテスト後における振り返りの有効な手立てを考え、実施する。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ペア学習やグループ学習に意欲的に取り組み、積極的に様々な考えや意見を伝え合うことができています。 ●一方で、文章や資料などから与えられた情報を整理し、根拠を示しながら論理的に説明することを苦手と感じている生徒が多い。	・与えられた情報を整理し、根拠を示しながら、自分の考えや意見を説明できる。 ・課題を解決するために必要な情報を取捨選択し、他者との対話的活動を通して自分の考えを深め、表現することができる。	・単元の振り返りや、レポート作成など、各教科において自分の考えを表現する活動を取り入れる。 ・縦割り班による合同学習において、話し合い活動などを取り入れ、自分の考えや意見を深めていく場を設定する。 ・10分間作文に取り組みさせる。また発表会を通して他者の考えや意見に触れる場を設定する。 ・読書活動を通して、読書の習慣化を図る。		・ICTを活用して発表資料を作成し、それらを活用しながら、自分の考え等を発表したり、まとめたりすることができた。 ・たくさんの情報や資料の中から、自分の考えの根拠となるものや、論理的な説明のために必要な部分を取捨選択する力を身につける必要がある。 ・昼休みに図書室を利用する生徒も多く、読書習慣は身につけてきている。	・他者の意見や考えを聞いて、お互いに考えを深めていく対話的な授業を、各教科において考える。 ・引き続き、ICTを活用し、協働学習の場を設定する。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業には意欲的に取り組むことができています。授業中においても積極的に発言をしようとする生徒が多い。 ●与えられた課題に取り組むことはできているが、自分に必要な学習課題を設定し、計画的に進めていくことが難しい生徒もいる。	・学習内容や学習態度の振り返りを進んで行い、その成果や課題を明確にするなど、自己調整しながら学習に取り組むことができる。	・家庭学習の手引きを作成・活用し、家庭学習の質を上げさせる。 ・あゆみに家庭学習時間を記録させ、計画的に家庭学習に取り組ませる。 ・自主学習ノートを全教員で指導し、生徒の理解度や習熟度を判断し、各教科での指導・評価につなげる。 ・定期テスト前計画表を活用し、各自の学習の仕方について成果や課題を明確にさせる。		・テスト前計画表だけでなく、自主学習ノートコンテストを実施することにより、日々学習に取り組む習慣が身についてきた。 ・全教員によるノート指導は、各教科等の視点から有効な助言を行うことができた。 ・家庭学習の内容について個人差が大きいのが現状である。	・「家庭学習の手引き」等を定期的に再確認させ、自分に合った家庭学習の計画を立てさせる。 ・自らの学習状況を定期的に振り返らせ、日々の家庭学習や、テスト前学習において、個人に応じた学習計画を立てさせる。

令和6年度 学力向上ロードマップ

